

第13回 札内川懇談会が開催されました



第13回 札内川懇談会の様子（とちか館 1階玉葉の間）

第13回札内川懇談会が、令和3年3月11日（木）に開催されました。

出席者（敬称略）

氏名	所属等
石垣 章	十勝川の生態系再生実行委員会
石原 由美子	アトリエゆふ
鏡 坦	帯広ウチダザリガニ・バスターズ
関川 三男	帯広川伏古地区子どもの水辺協議会
高倉 裕一	川と河畔林を考える会
千葉 利光	帯広 NPO28 サポートセンター
西江 晴彦	NPO 法人 十勝多自然ネット
柳川 久	帯広畜産大学 副学長
片山 剛	帯広市教育委員会 学校教育部学校教育指導室
橋本 雄大	帯広商工会議所 産業振興部長
川尻 年和	中札内村 総務課長
阿部 雅行	中札内村教育委員会 教育次長
大畑 智嗣	十勝総合振興局 帯広建設管理部 事業室 治水課長
工藤 拓也	帯広開発建設部 治水課長
大束 淳一	帯広開発建設部 帯広河川事務所長
角田 真一	帯広開発建設部 帯広河川事務所札内川ダム管理支所長

■懇談会での意見

< 札内川の動物について >

- ・ 5, 6 年ほど前から千代田新水路の魚道をサクラマスが非常に多く上るようになってきている。千代田堰堤から上流側の十勝川全体に相当な数のサクラマスが上っていて、その中の一部が札内川にも上って産卵している。ヤマメ、サクラマスが生活しやすい札内川にだんだんとなりつつあると思う。
- ・ 札内川に沿って陸の動物や鳥も結構移動しているの。十勝中流部は開拓されて 90%以上の緑地がなくなったが、生物の多様性がものすごく高いのは、十勝川と札内川があるからといえる。
- ・ 札内川沿いの池にはニホンザリガニがいて、かつて札内川とつながっていた時の残りであろう。札内川が現在のようになる過程で、ニホンザリガニの生息地がどのようになっているのか興味がある。

< 札内川の流れについて >

- ・ 日高山脈形成以降、氷河期があり、たくさん削った石を下流に運んで、そこを札内川が扇状地を形成しながら流れている。表面を流れている川だけが札内川ではない。扇状地を潜ったり湧いたりしている流れもある。表面を流れる水と、それに付随した種々多様な流れについて理解を深めると、もっと楽しい札内川の姿が分かってくるのではないだろうか。

< 札内川での楽しみ方について >

- ・ 札内川でのラフティングボート下りをできないだろうか。
- ・ 札内川は川幅が広くてアクセスしやすく、いろいろな事を観察しやすい。行けば行くほど面白い発見がある。ホームページに載せるだけでなく、何かもっと発信できないだろうか。
- ・ 舗装されている堤防も多く、サイクリング等、一般の方も川の近くまで来る機会が非常に多いと思うが、実際に堤防から降りて、高水敷や河原の所まで行くことが意外と少ないのではないか。

< 札内川ツアーについて >

- ・ 真冬のトレッキングで、何も無い川の上の真っ白い雪の中を、自分たちで足跡を付けて歩くのは非常に楽しかった。札内川の観光の一つになれば良い。
- ・ 日高山脈襟裳国定公園は国立公園になるという形で進んでいる。ピョウタンの滝を含めた札内川園地等、中札内村の観光資源と懇談会で行われている札内川のツアーを組み合わせたい企画をできれば良いと思う。

< 防災活動について >

- ・ 平成 28 年の大水害で札内川でも市街地付近の堤防が決壊する可能性があったため、水害に対する防災活動への取り組みが必要であり、次年度に札内川懇談会で取り組むことはとてもいいことと思う。

■次年度に向けて

- ・ 懇談会での意見を踏まえて、新たな取組となる防災活動を含めて次年度の活動内容について検討する。